

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー (オレンジユニット)		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200420-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200420-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi</a>
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年3月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日、入居者と共に洗濯たみや食器洗い、掃除などおこない協力しながら生活を送っている。余暇活動も、毎朝体操や口腔体操などを日課としておこなっている。その他も、意見交換会での「動物が好き」「美味しいものが、食べたい」などの入居者の声をもとに行事に取り入れている。ご家族の飼っているペットと触れ合ったり、近所へ食事に行ったりなど個別の希望にも応えられるよう取り組んでいる。便秘傾向の方もおられるため、青汁やヤクルトを提供、飲む時間にも工夫している。その他にも、マッサージやホットパックをおこない下剤に頼らず、自然に排便が出来るように経過観察している。少しずつではあるが、便秘が改善されてきている。ご家族の方へ来訪時に様子や毎月の状態を細目に報告をすることで、安心していただけるように信頼関係を築いている。また、行事へ参加してもらい一緒に楽しみゆつくり過ごす時間があり、みなさんの笑顔が多く見られている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念を基にコージーでの目標を掲げている。安心して心地よく生活して頂けるよう、家族と協力し、入居者の方一人ひとりの尊厳を第一に考えたケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2回ある地域の川掃除にスタッフが参加している。外出の機会を増やし、喫茶店やスーパーへ買い物に出掛けている。また法人内で行われるお祭りへ参加したり、小学校の運動会の応援、高校生の行事への招待があり、地域の方との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護、看護、リハビリの学生の実習や中学生の職場体験など受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族、介護保険課、他事業所、地域包括支援センターの参加があり、ホームでの活動内容を報告し、意見交換をしている。意見は、チーム会などで報告し検討、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ介護保険課や地域包括支援センターの参加があり、活動を報告している。必要時に、相談し協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会で定期的に、マニュアルやケア方法の見直しをしている。アンケートや勉強会を開催し、ケア方法の見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会が勉強会を開催し、日々のケアのふり返し、意見交換をしている。また研修会等に参加することで知識を深め、他職員への伝達やケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないが、今後、話を聞く機会があれば、参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。入居後も変更事項や分からないことがあれば、随時説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や運営推進会議の時に状況や活動内容を説明し、意見交換をしている。また、毎月生活の便り、新聞を送付している。 毎月、各担当が入居者の心身状況のアセスメントを行い、家族へ状況報告を行うと共に、要望を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを開催し、職員と意見交換を行っている。ミーティングに参加できない職員には事前に意見を聞いている。また随時、日誌や議事録の活用、申し送りをし情報の共有を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い、人事考課、目標設定、確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には担当の職員がつき、教育を行っている。また、法人内外の研修に参加する機会をつくり、知識を深めるよう取り組んでいる。また、法人内で講師となり発表や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修へ参加し、他施設と意見や情報の交換をしている。そこで得たことを職場内で共有し、ケアに活かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配事があればその都度傾聴している。混乱がある時は、1対1で気持ちを受けとめ気分転換になるよう活動の提供をしている。また、ご家族の不安も出来るだけ傾聴し関わりを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、要望や思いを聞いている。入居後は、随時現状報告をおこない不安などに対して軽減を図っている。要望があればその都度対応し、安心して過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、本人や家族に会い、日々の様子や身体状況、困っている事など情報収集している。また、サービスを利用している機関からも情報収集し、会議を開催し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、タッパ拭き、洗濯物干し、洗濯たたみ、畑仕事、掃除などの家事活動を生活の中の役割として、入居者で行っている。「何かしましょうか」と入居者の方から声をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に生活の様子を報告や来荘時には必ず関わりを持ち意向を確認している。月1回、行事を行い家族とゆっくり過ごせる時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が来訪時は、居室やリビングでゆっくり過ごせるよう雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、体操、歌、レクリエーションや毎月行事を行い、交流が図れる場を作り、コミュニケーションが難しい入居者には、職員が間に入ることで関わりが持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携を取りながら、必要に応じて情報収集や情報交換を行っている。法人内の施設に退去した方の所へ面会に行くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回、意見交換会をおこない希望を把握している。「美味しいものが食べたい」「どこかにいきたい」の声がある。行事や個別ケアに取り入れている。発言することが難しい方には、ゆっくりお部屋で話を聞いたり、家族にどんなことを好んでいたのかなど教えてもらい実現できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族へフェイスシートに生活歴を記入してもらい情報収集を行っている。入居後も日々の会話や家族との会話の中から生活歴を知り、職員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や状態に変化があればカルテ、モニタリングシートに月1回記載し、総合的に把握できるよう努めている。また連絡ノートや申し送りにて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1～6ヵ月ごとに介護計画書の見直しをしている。カンファレンスには、家族に参加してもらい、プランには、本人・家族の要望を取り入れている。訪問看護やリハビリ職員と相談し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に実施内容を記入し、毎月、モニタリングシートやアセスメントシートに評価を行っている。月1回チーム会をおこない、ケアの統一を図っている。定期的にカンファレンスを開催し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望を確認し、一人ひとりの状態に応じた対応方法を検討している。また必要に応じて法人内の他職種と連携し、その方に合った支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園やスーパーへ、散歩、ドライブ（ワイナリー・花見など）、買い物、食事に出掛けている。また託児所の園児との交流や法人内の行事・地域での行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医、週に1回の訪問看護や、訪問診察など連携を密にし、状態把握に努めている。状況の変化があれば随時報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での異変など、入居者の状態に合わせてバイタル測定などをおこない状態把握し、異変にも早く気づけるようにしている。週1回の訪問日には看護記録にて情報交換し、職員全員が状態の把握が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、随時面会に行き、本人が安心して治療を受けられるように支援している。早期退院が出来るように医療関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族、医師と相談し状態に応じた施設でサービスが受けられるように援助している。入居前後など随時、家族へ医療の意向説明、確認を行っている。現在、看取り希望の方も2名おられる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施し、実際に急変を想定したデモンストレーションを行っている。状態変化時、事故発生時はミーティングを開催し、対応方法を検討、ケアに取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練実施し外部の方に評価してもらっている。また、他部署の協力を得ている。マニュアルを作成しており、火災時は、マニュアルに沿って対応できるように周知徹底している。水害時には、隣接している特養と協力をし避難を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケア方法の見直しや勉強会、抑制廃止・虐待防止委員などでも話し合いケア方法の見直しをおこなっている。また、その都度チーム会でも見直している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをゆっくりと傾聴し、確認しながらおこなっている。毎月、意見交換会でも気持ちを聞けるよう機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活予定は決めているが、起床時間や食事、入浴など本人のペースや体調に合わせ、希望や要望にそえるよう対応をしている。本人の意思を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で身だしなみを整える事が困難な入居者には、本人の意見を確認しながら職員が行っている。定期的に訪問美容師がカットを実施している。行事の中で化粧をおこない、若かった頃を思い出され話がはずんでいた。ご家族の方からも「また是非してほしい」と要望があった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、タッパ拭き、ランチョンマット拭き、机拭きなどできることは入居者と一緒に行っている。毎月、行事食や地産地消の食事を提供している。入居者から好評である。畑で収穫した野菜を使って入居者と一緒料理を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの良い食事のメニューを作っている。食事、水分量のチェックを行い、摂取量が少ない時は本人が好きな物や栄養補助食品を提供している。細目に声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。入れ歯を夜間洗浄剤使用し清潔保持している。希望のある入居者は、歯科の受診や往診を利用している。往診時には、その方に合った口腔ケアの指導を受けている。また、嚥下機能の低下、肺炎になりやすい方は毎食前後に口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状態を把握し、定期的に声掛けを行っている。また、排泄パターンをみながらパットを使用する時間の工夫をしたり、トイレ誘導の時間、回数を検討している。状態をみながら、布パンツに変更している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量のチェックや体操、腹部マッサージを行っている。医師に相談し、薬にて排便コントロールを行っている。また便秘傾向の方には自然な排便ができるようヤクルト、青汁などを提供し、少しでも下剤が減量できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面や本人の希望などを考慮している。拒否のある方には、タイミングをみながら入浴の声掛けをおこない、ペースに合わせている。浴槽へ入る事が難しい方には、リフト浴を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候の良い日には、ウッドデッキにてお茶や食事をしたり、散歩に行き気分転換をしている。日中、傾眠がある方や体調に応じて随時、臥床時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用について常に確認が出来るようカルテポケットにはさんでいる。誤薬がないよう、配薬、服薬時、ダブルチェックをおこない誤薬防止をしている。日々状態の観察を行い、異常時は医師に相談している。法人内で行われる薬の勉強会に参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ家事の役割を持ち、食器洗い、タッパ拭き、洗濯物たたみ、ゴミ集め、掃き掃除、畑仕事などをスタッフと一緒にしている。個々の能力を活かし、メリハリのある生活が送れるよう歌や体操、読書やボール投げをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には、散歩や買い物へ行っている。意見交換会や日々の関わりの中から希望を聞き、ドライブ、外食などの計画をおこなっている。行事では、家族の参加があり、とても良い表情で楽しまれている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でのお金の管理が困難な為、必要な時には立て替え金にて対応している。本人の希望時や行事でのドライブや食事に出かけた時などに使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ暑中お見舞いや年賀状を書き送っている。希望時は電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をおこない清潔に保てるようにしている。また、天候をみながら空調管理、温度調節を行い、過ごしやすい環境を整えている。リビングには季節に合った花や植物、飾りを置き、季節を感じてもらえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で、ゆっくりと過ごしてもらえるよう椅子、ソファ、テーブルの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好まれている花の世話や本が読めるように本の提供、ぬいぐるみ、活動で作った作品などそれぞれ居室に飾っている。また、大切な家族の写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動できるスペースを十分にとっている。移動しやすいよう、家具の配置に配慮している。居室では本人や家族の要望を聞き、転倒の可能性が高い方には、センサーを設置するなど転倒予防に努め安全で過ごしやすい環境設定をしている。		